

17 消防、救急、防災

現状

(消防)

- 当町は、檜山振興局管内7町で構成される檜山広域行政組合に所属しています。現在3か所で職員総数21人により消防業務を行っています。
- 災害などが発生した場合に迅速に周知するため、全町内に26基の消防サイレン遠隔吹鳴装置を設置しています。
- 消防水利については、中歌・姥神地区における防火水槽の設置や老朽化した消火栓の更新を計画的に進めています。

[表15] 消防力の状況(平成21年度末)

署員数	消防団員	消 防 力			消防水利		救急車
		水槽付きポンプ車	普通消防ポンプ車	小型動力ポンプ	防火水槽	消火栓	
21	134	3	4	-	40	154	2

(救急)

- 救急活動の状況は年々増加の傾向にあります。高規格救急自動車の配置、救急救命士の配置など救急体制の強化に努めています。

[表16] 江差消防署の救急件数(平成21年)

合 計	内 訳									
	火災	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院転送	その他
422	1	25	5	2	40	1	1	192	154	1

(防災)

- 平成22年3月に「江差地域防災計画」の見直しを行い、それに伴い、避難場所、土砂災害警戒区域、要援護者の見直し等を行いました。

課題

(消防)

- 消防車の老朽化が進んでおり、計画的な更新が求められています。消防水利の充足や消防力強化のための消防設備の整備が課題です。
- 消防・救急無線は現在アナログが主流ですが、今後はデジタルへと移行していきます。デジタル化することにより秘話性の向上によるプライバシー保護、データ通信の活用、割当無線チャンネルの増加など、消防・救急無線の高度化及び電波利用ニーズの増大に伴う周波数資源の有効活用の両面から、平成28年5月までにデジタル化へ移行する必要があります。
- 消火栓については、偏向状況を解消する取り組みが今後の課題です。

(救急)

- 高規格救急自動車の機能をより高めるには救急救命士体制の強化が必要であり、救命士の養成と採用を計画的に行う必要があります。
- 救急車の出動については、病院間の転院に伴う、搬送件数が増加傾向にあり、救急出動体制の整備が課題になっています。

(防災)

- 災害時要援護者の避難など災害弱者対策については、日頃から地域全体で取り組むしくみをつくっておくことが必要です。

課題解決に向けた基本方針

- ・ 地域ぐるみの消防活動、防災体制を充実させます。
- ・ 災害時要援護者を把握し、災害や緊急時に備えて、日常から声かけを定着させます。

具体的な施策

消防・救急体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地上デジタル化に伴う消防救急無線の更新 ・ 消防自動車の更新 ・ 防火水槽及び消火栓設置による消防水利の改善 ・ 救急救命士の養成 ・ 住宅用火災警報器の普及
防災対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害に対する意識づくり、避難体制の確立 ・ 高齢世帯の緊急連絡体制、安否確認体制の充実 ・ 自主防災組織の育成、活動支援 ・ 近年増加している自然災害に備えた意識啓発 ・ 急傾斜地の危険防止対策の推進